



ボブスレーの小林さん、笑顔の出場報告

2月1日(水)、ボブスレーの日本代表としてトリノ五輪に出場することが決定した鳥取県体育協会の小林電一こばやしりゅういちさんが鳥取市役所を表敬し、竹内市長や中川教育長、出迎えた職員から激励を受けました。一度は出場が危ぶまれた小林さんですが、一転出場が決まった直後とあって喜びもひとしおで、笑顔で出場を報告しました。鳥取市では激励金を送ったほか、第2庁舎に懸垂幕を下げ、本市公式ホームページにコーナーを設けるなどして小林さんを応援しました。

お茶で味わう万葉時代

1月29日(日)、因幡万葉歴史館で「旧正月万葉茶会」が開催されました。これは万葉歌人・大伴家持が、旧正月に因幡国庁で万葉集最後の歌を詠んだことを記念して、ボランティアグループ「吉事の会」が毎年旧正月に行っているものです。青空が広がる暖かな一日となったこの日は、約70人が来館。白い雪が残る庭園の前で、家持が歌を詠んだ万葉時代を思い浮かべながら、お茶を味わいました。



本番めざして「エイッ、ヤー」

2月6日(月)、用瀬地区保健センターで「カンフー体操教室」が開催されました。用瀬地域では、この秋、鳥取県で開催される全国スポーツ・レクリエーション祭のアトラクションとしてカンフー体操を披露しようと、保育園児と小学生が中心となって月2回程度この教室で練習を重ねています。今回は7回目とあって、参加した子どもたちは慣れた様子で大きな掛け声とともに、華麗な動きを披露していました。



生き生き健康できらめくまちづくりを

本市の「きらめくまちづくり事業」の補助を受け、清掃活動や世代間の交流活動などに取り組んでいる佐治町河本集落の河本集会所で、1月22日(日)、医師の明徳政裕先生を講師に招き、「いつまでもあなたの脚、腰、健やかに!」と題した「生き生き健康づくりきんぎょせい講演会」が開催されました。「健康の四大要素は、頭、体を使い、笑い、摂生すること、これを基本に感謝の気持ちを持って、自分のペースで行動しましょう」とユーモアを交えながらの楽しい講話に、参加者は熱心に聴き入っていました。



竹炭と食塩水で「あら不思議!」

2月5日(日)、湯谷荘で「子ども地域教室推進事業」の一環で西郷地区ボランティアリーダー会の会員を講師に竹炭の電池作り教室が行われ、地区の小学生とその保護者12人が参加しました。竹炭に濃い食塩水を浸したキッチンペーパーとアルミホイルを巻き付け、それを4個つないで直列電池を作り、発光ダイオードから出ている2本の電線を炭部分とアルミ部分につなぐと、見事赤色の発光ダイオードが点灯。身近な材料で電池が作れたことに、参加した児童たちは驚き、歓声を上げていました。

